資料６

# 十勝川水系自然再生地域連携委員会

# 提言（案）

令和８年３月

十勝川水系自然再生地域連携委員会

# 目　次

はじめに ..... 1
第 1 章　十勝川水系自然再生基本計画について ..... 2
第 2 章　地域連携の推進に向けた課題 ..... 4
2.1.　「人づくり」について ..... 5
2.1.1.　背景 ..... 5
2.1.2.　これまでの取組 ..... 5
2.1.3.　課題 ..... 5
2.2.　「地域づくり」について ..... 6
2.2.1.　背景 ..... 6
2.2.2.　これまでの取組 ..... 6
2.2.3.　課題 ..... 6
2.3.　「社会づくり」について ..... 7
2.3.1.　背景 ..... 7
2.3.2.　これまでの取組 ..... 7
2.3.3.　課題 ..... 7
第 3 章　今後の取組 ..... 8

# はじめに

十勝川は、広大な十勝平野の大地を潤し、その大いなる自然の中で、生きとし生けるものに母なる恵みをもたらす、幹川流路延長156km、流域面積9,010㎢の一級河川である。

帯広開発建設部は、十勝川水系における平成28年8月洪水による甚大な被害を契機としつつ、近年の気候変動の影響による更なる降雨量の増大といった懸念を踏まえ、令和5年3月に十勝川水系河川整備計画を変更し、新たな計画に基づいた河川整備を推進している。さらに、令和5年11月には、新たな計画を踏まえつつ、十勝川水系の多様で豊かな河川環境を実現していくことを目的とした十勝川水系自然再生基本計画を策定している。

「十勝川水系自然再生地域連携委員会」は、十勝地域に根差し、様々な分野で活動する委員の参加により、十勝川流域の自然環境のほか、十勝川水系自然再生事業等による整備と関連して河川環境を活用した地域活性化に関する取組の検討・助言を行うことを目的として、令和6年8月より議論を重ねてきた。

本「提言」は、5回にわたり開催した委員会（R6.8.28、R7.1.10、R7.2.6、R7.2.21、R7.10.28）の討議において、今後、自然再生事業により一層の価値の向上が期待される十勝川流域を地域の財産と位置づけ、十勝川水系の恵まれた自然環境に関わる「人づくり」、「地域づくり」、「社会づくり」をテーマに「十勝川水系」の価値を活かした地域の活性化に向けた意見をとりまとめたものである。

この「提言」が、十勝川流域で生活する人たちはもとより、十勝川水系の自然を愛して活動する人たち、十勝川水系の魅力を求めて訪れる人たちのために少しでも貢献できることを祈念する。

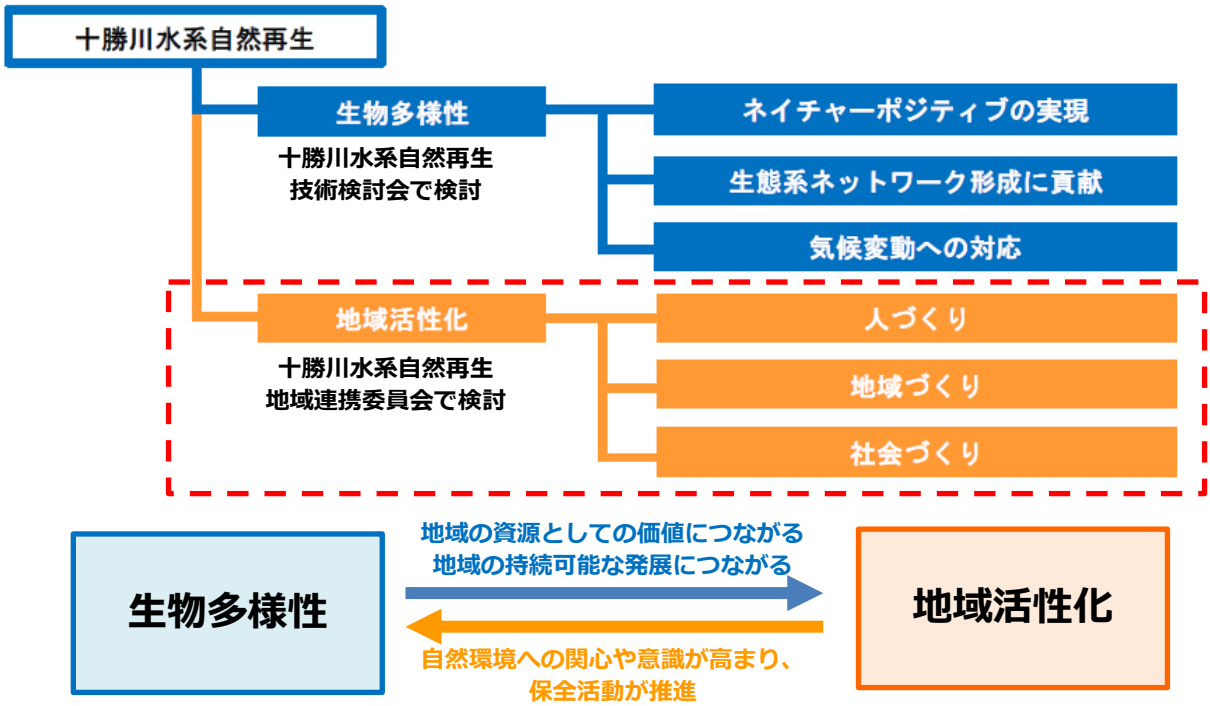
十勝川水系自然再生地域連携委員会　委員一覧

| 氏名 | 所属 |
|---|---|
| 浅岡　寛文 | 十勝川インフォメーションセンター管理者 |
| 石原　由美子 | アトリエゆふ 代表 |
| 近江　正隆 | (一社)十勝うらほろ樂舎 |
| 小川　宣幸 | 十勝川コーディネーター |
| ◎柳川　　久 | 帯広畜産大学 名誉教授 |
| 山岡　しのぶ | 十勝川温泉旅館協同組合　専務理事 |

# 第1章 十勝川水系自然再生基本計画について

十勝川水系自然再生基本計画においては、自然再生により得られる自然環境等を活用して地域活性化を目指すこととし、「人づくり」「地域づくり」「社会づくり」という 3 つの視点で地域活性化に取り組むことが示されている。

■十勝川水系自然再生の方針




## 十勝川水系自然再生地域連携委員会

| | |
|---|---|
| 人づくり | **河川教育など生涯学習を通した人材育成**<br>→地域に対する愛着や誇り、人間力、地域力を養うことに貢献 |
| 地域づくり | **自然・文化など豊富な地域資源を活用した地域振興**<br>→河川空間やその周辺には地域特有の資源を活かし、豊かさや賑わいの創出に貢献 |
| 社会づくり | **地域産業と連携した持続可能な社会への貢献**<br>→地域の状況やそこで抱えている課題を踏まえ、地域産業に貢献 |

**自然再生の整備内容や**
**地域連携方策の情報を共有**

## 十勝川水系自然再生技術検討会

・自然再生実施計画を策定
・河川協力団体等と合意形成を図りながら河川整備を展開

十勝川水系における自然再生の推進は、劣化した生物の生息場の回復による生物多様性の維持保全を目指しているとともに、豊かな河川環境の形成を通して様々な地域の魅力の向上を図ることによって、地域の経済活動への波及効果を期待しており、これを地域との連携によって実現していくことを目指している。

## 地域連携の目指す姿

事例)十勝川下流付近 湿地環境の保全

事例)十勝川中流付近 水際環境の創出

事例)札内川 霞堤を活用した環境創出

※生態系ネットワーク～生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組。

## 第2章 地域連携の推進に向けた課題

十勝川水系の河川環境は地域を構成する重要な社会基盤の一つである。この基盤が劣化することは社会の自然資本の減少につながるとともに、十勝川水系と歩んできた十勝特有の河川文化の衰退にもつながる恐れがある。こうした河川環境を向上し、それを維持・保全していくことは社会的な課題であると考えられる。一方で、十勝川水系は、川と歴史、川と農業、川と食産業といった形で様々なテーマに結び付けることもでき、これを資源として活用していくことで地域の経済活動につなげていくことも重要な視点と考えられる。

その実現には様々な関係機関・関係者が連携し、十勝地域における社会的な時代の潮流も含めて、新たな取組に発展させていくことが必要と考えられる。

**河川環境を取り巻く社会的な課題**

**十勝地域特有の自然資本の減少**
生物の生息場の減少やそれによる河川文化が衰退する恐れ。

**人口減少に伴う担い手の減少**
良好な環境を継承するために必要となる人材や後継者の不足。

**地域住民の河川への意識の低下**
不法投棄や負荷流出など、環境や景観の悪化につながる恐れ。

**社会の重要な基盤である河川環境を地域とともに保全することが重要**
**・希薄になってしまった川と生活とのつながりを再生し、川への親しみやすさの基盤を作る**

**関係機関・関係者との連携による社会的なニーズへの対応**

**社会的な時代の潮流を踏まえた取組を実施する必要がある**

- ○「自然と共生する社会」など持続可能な地域づくりへの期待（国立公園化を含む自然保護と利活用）
- ○観光産業の需要の高まりへの対応（地方創生を目的にアドベンチャートラベルが注目）
- ○災害の激甚化への対応（地域住民が流域治水に関心を持つ契機）
- ○社会課題への対応（河川環境の観点で言えば、深刻な人手不足への対応が必要）　など

## 2.1.　「人づくり」について

### 2.1.1. 背景

十勝川水系の河川は、地域にとってかけがえのない豊かな空間として親しまれてきた。例えば、「川狩り」と称して河原で炊事や釣り等が行われる文化があり、河原は地域の人々が集い賑わう空間であった。その一方で、今後の気候変動に伴う水害リスクの上昇に対する対応や地域共創に対する取組が社会的に求められている。

### 2.1.2. これまでの取組

(1)普及啓発

教育機関と連携し、小・中学生を対象とした川の自然環境調査（水生生物調査、簡易水質調査）が行われているほか、十勝管内を訪れる修学旅行生等を対象として川下り体験等地域を学ぶ多様なプログラムの提供が行われている。

(2)担い手育成

川の安全管理講習会の実施などを通じ、河川教育を行う担い手の育成を行っている。また、かわたび交流会などを通じた多様な活動を支える人材のネットワーク形成支援、かわたびコーディネーターによる河川と地域の魅力マッチングなどの取組が行われている。

### 2.1.3. 課題

これまでにも、様々な取組が行われているものの、人口減少や河川に対する意識の低下、地域団体の高齢化などに伴って、河川における取組を行う上で必要となる担い手の不足を招いており、その解決に向けた取組を行うことが重要となる。

■「人づくり」に向けた課題

地域の現状
・担い手や後継者不足
・河川への意識の低下　など

社会動向の変化
・気候変動による水害リスク
・地域共創の推進　など

「人づくり」に向けた課題
〇河川教育（環境・防災）等の拡大による地域住民の意識の向上
〇河川における様々な取組に対する担い手の育成

水辺の環境教育

学校と連携した植樹活動

## 2.2.　「地域づくり」について

### 2.2.1. 背景

十勝地域においては、外国人観光客の増加や観光行動の個人化など観光スタイルや顧客層の変化を見据えた観光振興の取組が求められている。また、十勝川水系の源流部に位置する日高山脈が令和 6 年に「日高山脈襟裳十勝国立公園」に指定されたほか、北海道経済産業局が地元自治体と連携して令和 2 年に十勝アウトドア観光推進プランを策定するなど、地域の自然資源を活用した観光振興に向けた機運も高まりつつある。

### 2.2.2. これまでの取組

(1)賑わい創出

地域住民等によりカヌーや散策、サイクリングなど河川空間を活用した様々なレクリエーション活動が行われているほか、イカダ下りや花火大会、アイヌ文化に関連したあきあじ祭りなど河川空間を活用した多彩なイベントが開催されている。

(2)観光振興

四季折々の自然環境や景観、地域文化など十勝川水系の多様な資源を活用した観光プログラムが提供されているほか、十勝川流域の自治体などを中心に、十勝川の河川空間を活用したアドベンチャートラベル※など多様な観光商品の試行・開発が進められている。

※　アドベンチャートラベル～「自然」「アクティビティ」「文化体験」の３要素のうち２つ以上で構成される旅行。

### 2.2.3. 課題

今後においては、現在の利活用を継承しながら、更に充実し、地域の魅力を向上させることが重要となるほか、地域が進める観光振興に対して河川空間の活用を進め、経済活動の活性化につなげることが重要となる。

■「地域づくり」に向けた課題

地域の現状
・経済活性化の必要性の高まり
・国立公園の指定　など

社会動向の変化
・観光スタイル・ニーズの変化
・インバウンドの増大　など

「地域づくり」に向けた課題
〇住民に親しまれる賑わい創出による地域の魅力アップ
〇河川空間の観光活用による地域の経済活動の活性化

十勝川イカダ下り

川下り

## 2.3.　「社会づくり」について

### 2.3.1. 背景

低炭素社会・循環型社会・自然共生社会といった持続可能な社会の形成は国内における重要な課題となっている。その推進にあたっては、住民等との連携による取組の充実が求められているほか、産業や企業活動においても持続性に対する社会的要請が高まりつつある。一方で、河川においては、不法投棄などの発生もみられ、河川環境の維持・保全に対する継続的な取組も求められている。

### 2.3.2. これまでの取組

(1)地域共創

クリーンウォークとかちに代表される、地域と連携した河川環境の保全活動が継続的に行われているほか、治水の杜づくりといった地域連携による植樹活動も行われている。

(2)産業連携

農地の浸水被害軽減を目的として河川の掘削土を利用した農地の嵩上げなどが行われているほか、河川空間で発生する伐採木等を企業に無償提供することにより、カーボンニュートラル※の推進に貢献している。

※カーボンニュートラル～温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること。

### 2.3.3. 課題

流域内に立地する企業や住民等と連携を深め、河川環境の保全・創出を推進していくことが課題となるほか、十勝川水系が有する資源を活用した地域の企業活動や農水産業との連携を一層推進していくことが課題と考えられる。

また、既に行われている取組については、地域住民にも適切に情報が伝わるよう、周知の強化が求められる。

■「社会づくり」に向けた課題

地域の現状
・不法投棄などの環境負荷
・泥炭や伐採木の資源活用　など

社会動向の変化
・持続可能な社会づくりへの要請
・地域共創の推進　など

「社会づくり」に向けた課題
○住民等と連携深化による河川環境の保全・創出に向けた取組推進
○十勝川水系が有する資源を活用した企業活動や農水産業への更なる貢献

河川周辺の清掃活動

伐採木の有効活用

# 第3章 今後の取組

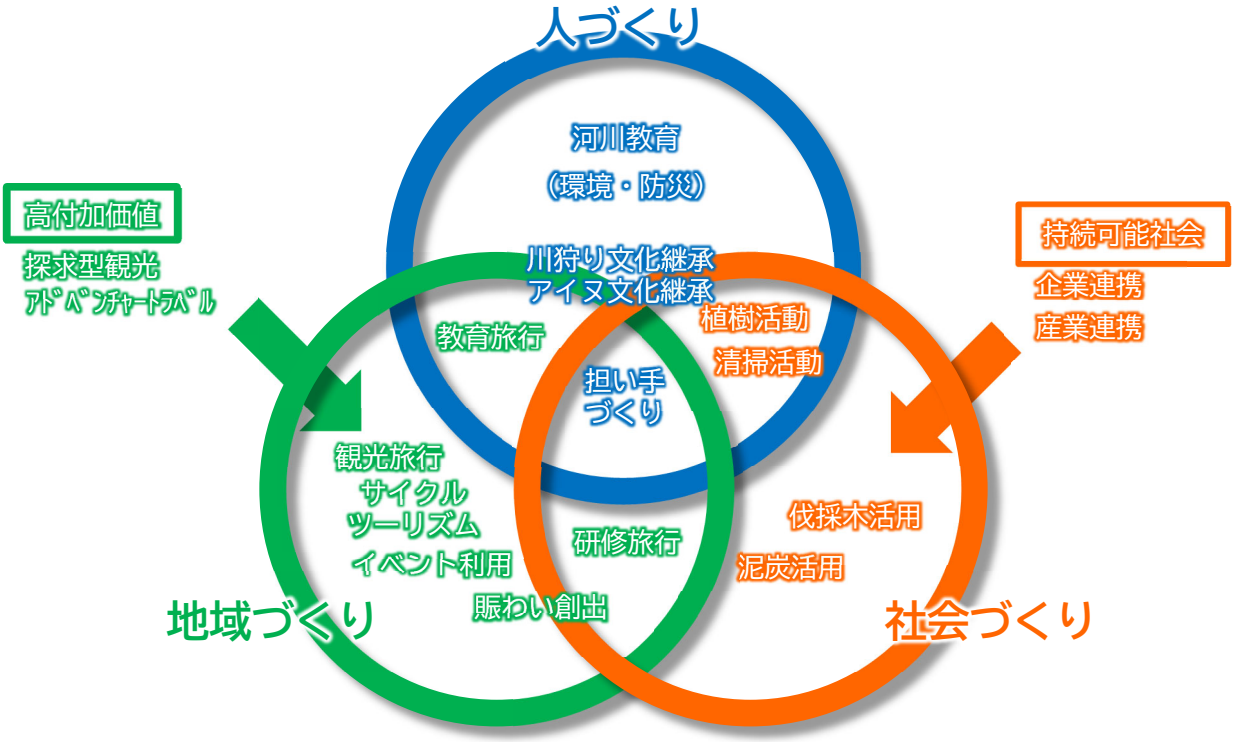
十勝川水系自然再生基本計画では、河川環境の利活用による地域の社会・経済活動の拡充を地域連携によって実現することとし、「人づくり」、「地域づくり」、「社会づくり」の３つの視点で取り組むこととしている。

「人づくり」は、河川に関する社会的な啓発を促す取組であり、広く一般に河川の役割や魅力を伝え、様々な取組をけん引する人材を育成し、充実させていく取組である。「地域づくり」は、そこに住まう人々の生活を豊かにする取組であるほか、来訪者に対しても魅力的な地域としていく取組である。「社会づくり」は、地域づくりをさらに発展させ、地域社会の持続性や地球環境への貢献を見据えた取組である。

これら３つの取組は相互に密接に関係しており、明確に区分されるものではない。多様な主体がそれぞれの役割を担いながら連携・協働し、自然再生事業の成果が最終的に地域へ還元されることを常に意識して取り組むことが重要である。

こうした考え方を共有し、主体的かつ継続的な取組を推進するためのキーワードとして、「十勝川と共に創る人と地域」を位置づける。

## 地域連携の取組の概念




## 十勝川地域連携のキーワード

**「十勝川と共に創る人と地域」**

<キーワードに込められた意味>

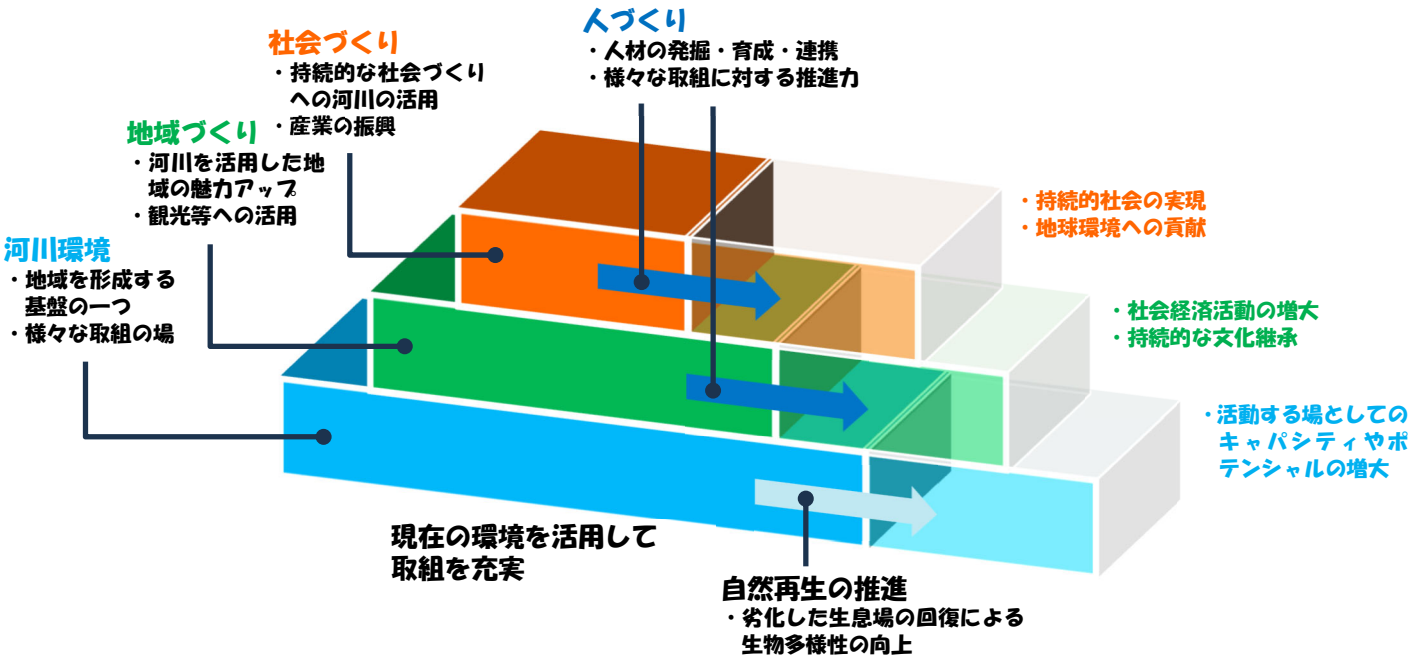
・本キーワードは、十勝川の自然再生が、最終的には地域やそこで暮らす人々に確かな恩恵をもたらす取組であるとの認識を示したものである。自然再生事業の成果を地域へ還元することを念頭に置き、行政、地域住民、関係団体等の多様な主体が相互に連携しながら取組を進めていくことの重要性を表している。

・また、令和６年３月に閣議決定された「第９期北海道総合開発計画」が掲げる「共創（共に北海道の未来を創る）」という理念を反映している。

十勝地域では、「雄大な自然」「豊かな食」、アイヌ文化などの「独自の文化」、サイクリングやカヌーといった「多様なアクティビティ」を楽しむ環境が整っていることに着目して、アドベンチャートラベルを推進し、地域活性化を促すことを目指している。十勝川水系の河川環境は、こうした地域の社会的な動きに大きく貢献することが可能であり、現在の河川環境のポテンシャルを活用して、さらに発展させていくことが有効と考えられる。

こうした中で、河川環境における自然再生の推進は、河川環境の利活用に対するポテンシャルをさらに高めるものであり、自然再生の推進に伴って地域の社会・経済活動の拡充を図っていくことが可能になるものと考えられる。

## 自然再生の推進と地域連携



河道内に整備した湿地環境　　河川周辺の清掃活動　　川下り

## 自然再生の推進により期待される地域連携の取組

- 自然再生個所を活用した河川教育（環境教育・防災学習）の展開
- エコツーリズム（ラフティング・バードウォッチング・フィッシング等）の拡充
- サイクリングネットワークと河川空間との連携
- 川狩り文化の再興
- 生息場拡大による漁業振興
- 日高山脈や田園地帯と河川の調和する景観の活用
- 旅行利用の高付加価値化（AT・企業研修・教育旅行など）
- 河川整備や維持に伴う副産物（伐採木・泥炭）の活用による低炭素社会への貢献
- 企業における TNFD などの取組との連携による持続的社会への貢献

## 地域と連携した自然再生の推進方法

**事業個所の詳細検討**
- 生物の生息場として機能
- 重要な環境の保全

**自然再生の実施**
- 生き物との出会いの場の形成
- 良好な風景の形成

**地域連携の推進**
- 河川教育・観光活用・産業振興
- 生息場の維持・保全

**■河川の将来イメージ**
- 河川の特徴の反映
- 周辺の地形や土地利用の反映　　等

**■地域の関係団体・関係者の意見**
- 自然環境保全に関する意見
- 利活用に関する意見　　等

**■まちづくり計画**
- 自治体等の総合計画
- 地域振興計画や観光振興計画　　等